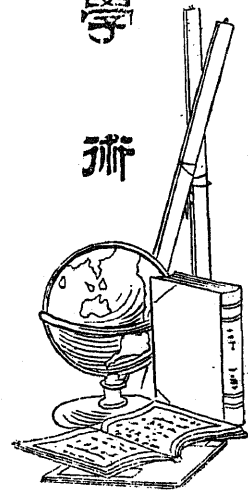


學
術



昆虫標品製法

鷺
水

嬢様や、小供さんがたの、家庭の遊び事には、色々のおもしろい事が、あるでありませうか、茲に昆虫の標品を造る事は、次漸、學問上の、智識をますと同時に、中々、有益な、おもしろい楽しみでふりまして、實際自分でやッて見ますと、色々の虫か、十よれば十五、十五よれば二十もよせたい氣持になりまして、日曜くを樂しみに、自

分で採集箱をさげて、青葉の頃や、枯葉の頃に、近邊の、田舎道を、ぶら〜と採集しながらあるき回りに歸りますと、其れは〜、其晩の御飯の、おいしい事といつたらありません、終には、大きな標品箱を造らなければならぬ様になりまして、其れは〜、實に愉快な、楽しいものでありまして、私は是れ程、有益でおもしろい家庭の遊びは、別にないと思ひます、皆さん、御ためしに、近邊のものから、二つ三つ集めて御覽なさいまし、きつとおもしろくて、やめられない様になるに相違はありませんと、とても昆虫全体といふ譯には行きませんから、私は、二三年前より、蝶の採集を初めまして、早や大分種類が集りましたから、其内の、奇麗なものを、大小取りまして、長さ二尺、巾一尺、深さ一寸は

かりの、ガラス蓋の箱に飾りまして、是を私の机の室に、額にしてありますと、皆さん御遊に來まして、是れは實物の額だ、とても油繪なんぞの及ぶ處ではないなんて、申して御賞めになりますのが、私は大にうれしうムります、

六かしい事でも何でもありませんから、今日は其虫の標品の製法を、あらまし御話し致して見ようと思ひます、

先づ虫を取りますには、虫掬網がいりますが、これは、極めて簡單なものでありますして、針金を、徑一尺位にまげて、これを三尺ばかりの竹のさきにつけるのであります、そうして其針金にはなるべく緑色の、蚊帳地の如きものにて袋をつくりて、是をぬひつけて置きまして、是れにて蝶や虫を捕ふるのであります、

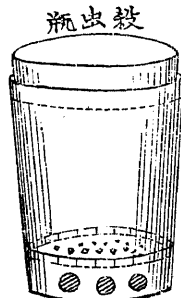
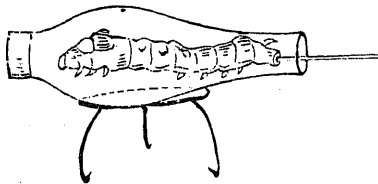
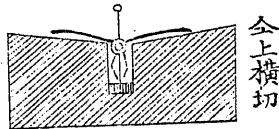
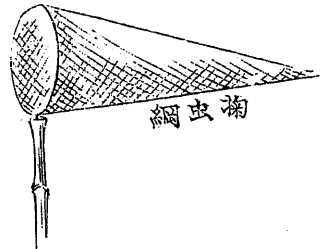
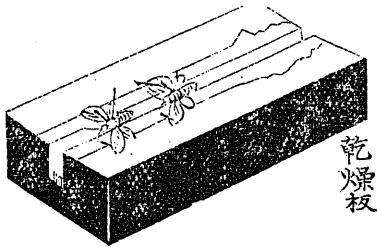
また甲虫の類は、通常、蝠蝠傘を、擴げまして、是れをさかさに木の下に、ぶらぶらげて置きますと、甲虫が、獨りではれに落ち込みますから、其を捕ふるのであります、

虫を殺すには、殺虫瓶に入れて、是を殺しますが、さて其殺虫瓶と申しますのは、口の廣い瓶か、もしくはコップの様なものの中に、靑酸加里の塊を二つ三つ入れまして、其上を、厚紙にて抑えまして、其厚紙のふちに、糊をつけて、コップの中頃にはりつけまして、そうして其コップに、コルクの栓をして置きますと、毒がコップの内にたまりますから、虫は直に死んでしまひます、また甲虫の類は、煮湯の中に入れて、殺してもよろしいのであります、個様にしますと、何時までも、光澤がうせずに、かびもつかないでよろしう

ござります、

かくして殺したる蝶や虫を乾かしますするには、通常、長サ一尺、厚サ一寸、巾二寸ばかりの木片をつくりまして、其真中に深サ七八分ばかりの縦溝を掘りまして、其溝の中に、虫の体がはまる様にとめ針にてさしまして、其して四つの羽を溝の兩方の堤の上に擴げて、此れを絹糸にて抑えて置まして、其の木片を柱にでもぶら下げて置けば、虫は一週間ばかり致しますと、奇麗に乾かしまして、四つの羽を、チャンと擴げた標品が出来るのであります、

蝶の如き腹の膨れて居ますものは、其の腹をさりとて、内臓を出しまして、あとに綿を入れて、斬口をうまく閉ぢて乾かします、また蜻蛉の類では、腹が非常に長くありますから、乾くにつれて、尾



が次漸と下に垂る、心配があまりますが、此等には腹部から胸部まで、細き竹をさして置きますれば、下に曲る心配はありませぬ、

右申しました様に、蝶蛾の標品は、誠に容易くて出来させられども、幼虫類の標品を造りますのは、少し面倒であります、それで大概はアルコールにつけて置きますければとも、また乾してする時もあります、

其れを致しますには、先づ其幼虫を取りまして、其尾を軽くもみ、次に頭をもみますと、虫の体内の、臓が出てしまいますから幼虫の体が縮みます、さて、其の縮みたる虫の、尻に硝子管をはめまして、糸にてしばり、此れを口でふさまして、中に空氣を通して、体を元の通りに、膨らするのであります、其の膨れたるを乾すには、色々の仕方

があるのでありますが、其中にて、一番手輕くて、容易く出来る法を申しますれば、

今膨らかしました虫の体を、ランプのホヤの中にさし入れまして、此れを五徳の上に置きまして、下より火にてあぶるのです、

個様に致しますと、幼虫はまるで生てる様な形に、誠に奇麗な姿に出来るのであります、其れをゴムにて厚紙や、又はおし葉の上にはりつけて、標品と致します、

然し之を箱に入れて長く置きますと、時々虫がついたり、かびがはねたりすることがある、其時はペンツオールかアルコールを筆の尖につけて、虫の体を洗へば宜しい。又ナフタリンを紙に包んで箱の中に入れて置くのも虫やかびを防ぐのには至極よろしい。